

はれと

Palette

7

2022 July
vol.263

特集 JA岡山中期計画の取り組み 【令和3年度 実践概況報告】

農を担う
米麦農家 阿部 友哉 さん
今地区……10ページ

今月の折り込み 2022年7月号カタログショッピング ほか

J A岡山中期計画の取り組み

「令和3年度実践概況報告」

当JAは、令和元年度の通常総代会で設定した「JA岡山中期計画」に基づき、同年度から令和3年度までの3力年において、その取り組みを進めてきました。

中期計画の具体的な取組内容は、第34回岡山県JA大会で決議された県下JA統一の重点的取組事項（9項目）別に掲げて、年度ごとに進捗管理や実践状況の検証を行った後、組合員・利用者の皆さまへ広報誌等を活用して情報発信することとしています。今月号では、3力年計画の最終年度（令和3年度）の実践概況をご報告させていただきます。



1. 農畜産物の生産振興

①水田フル活用ビジョンの作成

・水田活用野菜の経営収支表を基に、大型米麦農家に対して契約野菜（キャベツ、レタス等）の作付推進に取り組み、1・9畝の新規作付拡大となりました。

②米の主要品種並びに業務用米の安定多収生産技術の確立

・ドローンを活用した水稻の生育診断のための葉色データの収集を行い、診断結果に基づき、GIS地図システムに測定データの入力・蓄積を行いました。今後、G

IS地図システムの推進とデータ蓄積を継続して行い、システム利用者に対する水稻の生育診断に取り組みます。

・普及指導センターと連携し、青味粉率と葉色診断を活用した米の収穫適期予測に取り組みました。（ヒノヒカリ…3力所、アケボノ…3力所）

・業務用中生品種として、「さとのつき」の収量調査を行い、産地適正ならびに高温耐性品種としての検証を行い、収量面ではヒノヒカリとの優位性は確認できませんでした。

③小麦およびビール麦の作付拡大と安定多収技術の確立

・高品質・安定生産と省力化を目的に、JAアグリ岡山、グリーンファーム岡山と連携し、多収・高品質に向けた生産振興に取り組みました。令和4年度実績で、二

「さとのつき」の品質については曇天による日照不足のため、全調査区で2等となりました。

また、普及指導センターと協力し、中生品種の新品種である「つやきりり」の収量調査を行い、収量面での優位性が確認できました。

・新規就農予定者10名（岡山市8名、瀬戸内市2名）に対して農業実務研修を行い、研修終了後の就農支援を行いました。また、行政と連携した各種事業に取り組み、新規就農者数40名（岡山市31名、瀬戸内市2名、玉野市2名、吉備中央町5名）を確保しました。

条大麦1,877^畧、小麦763^畧となりました。

・各営農センターと連携し、二条大麦「サチホゴールド」への品種転換を行った結果、令和4年度の「サチホゴールド」の播種面積は641^畧となりました。

④野菜振興品目の生産拡大と野菜産地の育成

・営農振興支援事業を策定し、組合員への周知を図り、管内農産物の生産拡大に取り組みました。

【営農振興支援事業生産拡大実績】

重点品目 725^畧

（夏秋ナス17^畧、キャベツ208^畧、白菜228^畧など）

既存品目 277^畧

（レンコン46^畧、かぼちゃ12^畧、いちご33^畧、にんにく40^畧、冬瓜76^畧、トウモロコシ27^畧、キュウリ12^畧、ピーマン14^畧など）

⑤果樹振興品種、有望品種の生産拡大と主要品種の高品質安定生産

・営農振興支援事業を活用し、管内果樹の新改植による園地更新を図りました。



【新改植実績】

もも（清水白桃、おかやま夢白桃、白皇[®]）新改植10・5^畧（うち新規拡大1・1^畧）、ブドウ（ピオーネ、シャインマスカット、オーロラブラック、紫苑）新改植8・3^畧（うち新規拡大0・3^畧）、レモン改植1・0^畧

⑥施設・露地花卉の産地規模の維持・拡大および新規品目の生産拡大と産地化

・関係機関、市場等と連携し、花卉品目の作付推進を図った結果、栽培面積が13^畧拡大しました。

露地花卉10^畧

（小ギク、リンドウ、ケイトウ）

施設花卉3^畧

（ラブレウラム、ラークスパー）

⑦和牛繁殖経営の安定

・関係機関と連携し、「おかやま四ツ☆子牛育成マニュアル」を活用した飼養管理技術指導、県の基幹種雄牛を活用した交配指導を行いました。年間出荷頭数233頭のうち、24頭の「おかやま四ツ☆子牛」を市場へ出荷しました。（出荷率10・0%）

2. 意欲ある担い手の確保・育成

①新規栽培者の育成と部会活動の活性化

・本所職員（指導課）の各部会の栽培講習会への参加、営農センター職員とのほ場の同行巡回指導を実施しました。また、女性部4支部に対して、園芸講座を開催しました。（5回開催…計130名参加）

②新規就農者の受入体制整備と就農支援



・新規就農予定者10名（岡山市8名、瀬戸内市2名）に対して農業実務研修を行い、研修終了後の就農支援を行いました。また、行政と連携した各種事業に取り組み、新規就農者数40名（岡山市31名、瀬戸内市2名、玉野市2名、吉備中央町5名）を確保しました。

・もも農業塾（6名）、ぶどう農業塾（16名）を実施し、受講終了後、生産部会、直売所会員への加入推進を行いました。

③集落営農組織の育成と活性化支援

- ・管内の集落営農組織に対する高収益作物の品目選定と作付提案を行い、品目の選定・取り組み方法についての支援を行いました。（建部地区、玉野地区）

3. 販売戦略の強化と販売体制づくり

農畜産物販売高の向上と確保

- ・ノートルダム清心女子大学と共同で「米の消費拡大」「地産地消」「食育」をテーマに考案したオリジナルブレンド精米「晴々ロマン」を商品化し、令和4年3月より販売を開始しました。発売イベントでは、3日間で165袋販売しました。
- ・営農振興支援事業と飼料用米の手取り試算表を活用し、飼料用米の契約推進を行いました。（飼料用米集荷数量…3,383ト/前年対比176%）
- ・販売戦略の一環として、毎月2回（上期・下期）産地、全農事務所、市場、営農センター園芸担当者からの情報を取りまとめ、



産地情報ならびに市場情勢の共有を図ることで有利販売につながりました。

- ・もも、ブドウのギフト需要に合わせた安定出荷販売を行うため、重点取引市場（関東・関西市場、地元市場）との連携により、安定取引を行いました。（もも…227ト/前年対比81%、ブドウ…865ト/前年対比106%）
- ・関係機関と連携し、いちご「晴々」の東京青果市場ならびに地元市場への計画出荷を行い、

ランドの認知度向上につながりました。（出荷量13ト/前年対比115%）

- ・全農と連携し、秋冬野菜の業務・加工用出荷を計画的に行いました。（キャベツ…568ト/前年対比71%、白菜…1,296ト/前年対比114%、レタス…14ト/前年対比76%）
- ・岡山駅の「エキチカひろば」で、販促イベントを開催し、青果物の消費拡大により、

マン」を加え、販売を開始しました。（3月末）

- 【花野果オンライン販売実績】9,730千円（税抜）前年対比140%
- 【その他・イベント販売実績】7,091千円（税抜）前年対比208%
- ・業務用二次加工品として、外部委託による「清水白桃シラップ漬け」「みかん果汁」「レモン果汁」の製造を行い、県内菓子メーカー等への販売を計画的に行いました。



4. 農地の流動化と労働支援の推進による農地の有効活用

①農地の流動化によるほ場の集積・整備並びにモデル生産団地の育成

- ・一宮選果場果樹部会役員、行政等関係機関で富吉地区（山内支部内）の園地確保と整備に向けて、リスト化した貸借売買可能園地についての整備計画の検討を行いました。
- ・関係機関と連携し、一宮地区で人・農地プラン（新規就農者等を含む面積拡大希望者）の対象32経営体に対して円滑な園地の流動化を図りました。
- ②農作業受委託組織による農作業支援体制の確立
- ・「1日農業バイトdaywork」のアプリを活用し、大型農家等への労働力の確保による農作業支援を行いました。（登録農家者数46名、成立件数428件）



5. 営農指導体制の充実

TAC指導員体制の充実

- ・TACリーダー会議を月1回開催し、各営農センターの活動報告や要望、担い手情報、各種栽培・生育試験の取組結果、課題実践などの進捗報告を行い、情報共有を図りました。
- ・全農と連携し、肥料・農業メーカーとの同行訪問を延べ171日行い、大型農家のニーズに合わせた商品提案など、肥料、農業等の普及推進に取り組みました。

6. 食農教育活動を通じた地域コミュニティの活性化

農業体験学習・親子料理教室の開催

- ・新型コロナウイルス感染症の感

染状況を考慮しながら、女性部との連携による「ちやぐりんフェスタ」を開催しました。（10会場…329名参加…芋ほり、工作、野菜栽培、料理など）

7. 総合事業を通じた生活インフラ（生活基盤）機能の発揮

組合員健康診断の実施

- ・各地区において各種健診を実施し、組合員の疾病の早期発見など健康増進活動に取り組みました。（33会場…受診者数1,004名）

8. 支所等を拠点とした「JAくらしの活動」の実践

地域ふれあい活動、グルメツアーの実施

- ・「地域ふれあい活動」の一環として、支所、営農センターだよりの発行などを行いました。
- ・新型コロナウイルス感染症対策を施したうえで、農協観光主催の募集型商品および「おかやま旅応援割」を活用した企画を行いました。



9. 正・准組合員とのメンバーシップの強化

女性部・フレッシュミズの活動紹介や加入促進・コミュニティ誌「あぐらぐOKAYAMA」の発行

- ・女性部と協力し、フードドライヴ（各家庭で使い切れない食品をフードバンクや福祉施設などに寄贈する活動）を実施するなど、SDGsの実践を通じて地域と女性部の活性化に取り組みました。女性部20支部 2,489名（内 フレッシュミズ6支部 62名）
- ・コミュニティ誌は、令和3年7月11日（日）に、桃とブドウをテーマに「2021年夏号」（16万9千部）、令和3年11月28日（日）に、米をテーマに「2021年冬号」（16万9千部）を発刊しました。

祖父が築いてくれたものを守り、さらなる発展を目指す

阿部 友哉さん

今地区：米麦農家

「あべ ともや」

平成3年生まれ。有限会社大森農産。米、麦、飼料用とうもろこし、大豆を栽培。趣味は映画観賞。座右の銘は「何事にもチャレンジ」。



農業について思いを話す阿部さん

―農業を始めてからは

最初はがむしやらに取り組んでいました。働いた分がしっかりと結果につながったときは、やりがいを感じました。

現在は、にこまる、朝日、アケボノ、ヒノヒカリ、ヒヨクモチ、みなちから、つきすずか、雄町、山田錦の9品種を栽培しています。品種を1つに絞らず、農繁期をずらしながら作業できるようにしているの、安定した経営が行えます。

去年から大豆の栽培を始め、いろいろなことにチャレンジしています。

―楽しいことは

田んぼをきれいに管理することが楽しいです。借りている農地もあり、荒らしたくないという思いが強く、整地作業やヒエ取り作業などをしているときには、やりがいを感じます。

―苦労することは

農業はやはり肉体労働が多く、大変です。現在は、機械化が進んできたため、だいぶ作業が楽にな

り、効率化も図ることができています。

―栽培上でのこだわりは

田んぼが瀬戸内地区や藤田地区など県南各地にあるため、その土地や環境に合わせた栽培方法を模索しながら、取り組んでいます。

また、祖父が経営していたころは、乾田直播栽培をよくしていたと聞いています。私も今後は作業の効率化を目指して、乾田直播栽培を増やしていきたいです。

規模拡大を目指しながら品質向上へ

―今後の抱負は

経営規模を拡大しながら、品質の向上を目指していきたいです。消費者のニーズに合わせて、食味の向上や有機米にも取り組んでいきたいです。祖父が築いてくれたものを守り、さらに発展させていけるよう頑張っています。

聞き手…JA岡山広報担当



大森農産を立ち上げた祖父の(故)大森恒さん



苗箱を運ぶ作業の様子

祖父が築いたものを守りたい

―就農したきっかけは

私が20歳の時に祖父が他界しました。当時、私は勤めに出ていましたが、祖父が立ち上げた農業法人を守るために退職し、農業経験はありませんでしたが、5年前に農業法人の従業員として働き始めました。

野菜

ミズナは小株から大株まで楽しめます



営農部指導課 村中 淳人

ミズナ(水菜)の栽培管理

ミズナ(水菜)は古くから京都で栽培されていたツケナ的一种で、関東ではキヨウナ(京菜)とも呼ばれています。葉の形が細く、切れ込みの多い菜類ですが、柳の葉のような丸葉に分化したのが壬生菜です。本来は、大株にして水炊き、すき焼きなどに利用しますが、これからの暑い時期には、小株採りして、サラダ用として人気の高い野菜となっています。

栽培時期

小株採りでは、冬を除き種まきができ、夏まきは30日程度、春秋まきは40〜60日で収穫になります。大株採りでは8月下旬〜9月中旬に種まきし、12月〜3月に収穫します。

花芽分化と抽苔

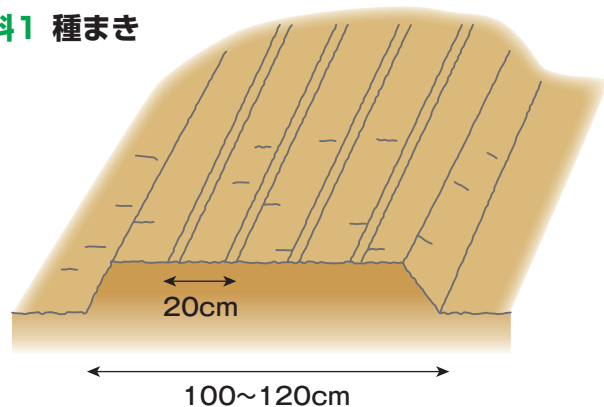
種子が吸水し、発芽したところから低温にある一定期間遭遇すると花芽

分化します。その後の高温・長日条件下で分化した花芽がさらに生育して抽苔します。花芽分化は品種によって違いがありますが、目安として早生品種は10℃以下、積算40日で、晩生品種は5℃以下、積算50日で抽苔します。冬まき、早春どりの作型では抽苔の危険性が高く、特に注意が必要です。

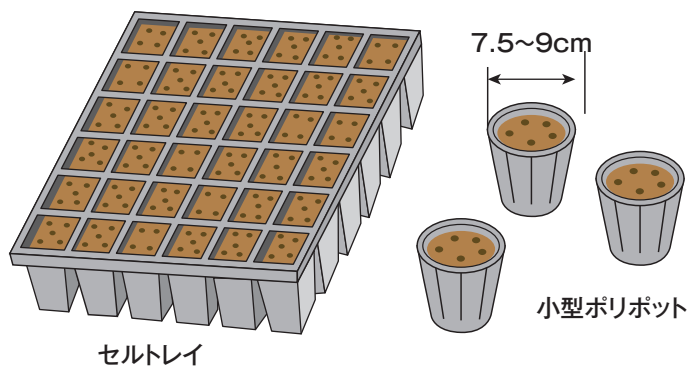
土づくり・施肥(例)

幅100〜120cmのベッドを作り、1平方メートルあたり「こうぼ堆肥」300g、「苦土セルカ2号」100g、「野菜いちばん」100gを全面に施

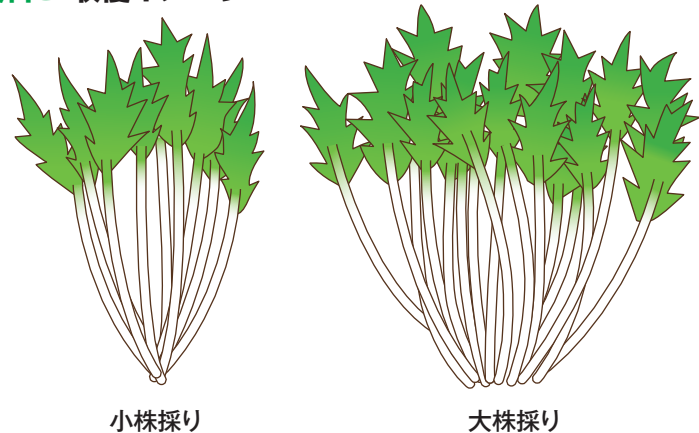
資料1 種まき



資料2 苗作り



資料3 収穫イメージ



し、土とよく混ぜておきます。大株採りでは、種まきの1カ月後と2カ月後に「園芸追肥いちばん」を1平方メートルあたり、20g程度追肥します。

種まき

小株採りでは直まきとし、ベッドに幅20cm間隔の種まき溝を作り、約1cm間隔に筋まきします(資料1)。種まき後は防虫ネットでトンネルを作ると、害虫からの被害を少なくすることが出来ます。

大株採りでは移植栽培とし、セルトレイや小型ポリポットに4〜5粒まき(資料2)、間引きして本葉5〜6枚の

苗を作り、条間30cm、株間30cmに定植します。

管理

小株採りでは本葉が出て込み合ってきたら、適宜間引きを行い、最終的には株間5cmくらいにします。

収穫

小株採りでは、葉の長さが25〜30cmくらいが収穫適期です。一部を収穫し、株間15〜30cmとなるように株を残し、中〜大株採りにする方法もあります。大株採りでは、1〜2週間になったら収穫を始めます(資料3)。

花き

ハボタンは縁起が良くとされています



営農部指導課 中川 雄一

切花用ハボタンの栽培

お正月の玄関や床の間を飾るおめでたい生け花、近頃ではハボタンが欠かせない存在になりました。花言葉は「祝福」「慈愛」など、お祝いの贈り物にも好適ですね。花壇に植える品種とは別の、茎が長く伸びる品種を使います。

品種

よく使われるのは丸葉系で、「晴姿」「初紅」「春の紅」などが12月の花屋さんにも並びます。

この他、葉に強いウエーブがかかったファーストレディなどのフリンジ系、大径で、染色にも向いたフレア系など、多様な品種があり、いずれも適期に種まきして育成すれば茎が長く伸びる切り花向きです。栽培管理の概略をお知らせします。

育苗

200〜288穴セルトレイで育苗するのがおすすです。平鉢でも育苗できますが、いったん小型のポリポットに移植してから定植する手間がかかります。容器に清潔な播種用土を入れ、セルでは1粒まきとします(資料4)。長い切り花を育成しようと思うと播種期は7月上旬で、覆土を3〜5cmほどして直射光の当たらない軒下などに底を浮かせて置き、充分灌水します。発芽までは乾かないようにきれいに

な新聞紙を掛けておき、時々新聞紙に軽く散水します。

4〜5割発芽したら残りもまもなくですから、夕方新聞紙を取り除きます。その後は乾かないように、過剰にもならないように気をつけて水やりします。夕方にやると伸びやすいので、できるだけ我慢します。

本ば準備と定植

10平方メートルに、堆肥20kg、基肥用化成肥料(サンコーシリカ100では1kg)、苦土セルカ0.5〜1kg程度施用して耕うん畝立てします。緩傾斜の畑、水田などを利用しますが、畑では乾燥と高温障害対策に、水田では排水路としっかりした畝立てをします(資料5)。

畝面幅80cmとし、12cm×6目のフラ

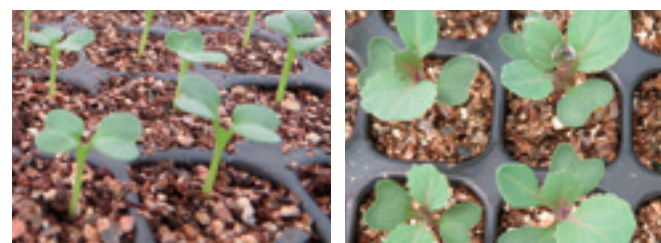
ワーネットをしつかり張っておきます(フレア、ファーストレディ

等の大型品種は15×15cm以上)。播種後20日程度、本葉2〜3枚の苗を浅植え、深植えにならないように1本ずつ定植します。定植時期が高温暖乾燥期になりますから、定植前日から不織布などで遮光して地温を下げておきます。定植後は充分灌水し、倒れた苗は起こしておきます。畝面に薄くもみ殻をまくと地温抑制や乾燥防止効果がありますが、立ち枯れが発生しやすいので、できるだけ早くオーソサイド水和剤80の6000倍液を散布しておきます。

その後の管理

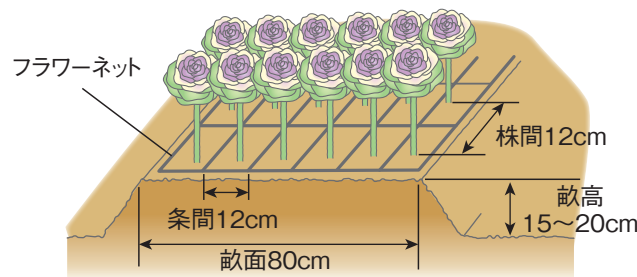
・灌水
活着するまでは乾燥に注

資料4 セルトレイ育苗した苗



左:播種後10日、子葉展開 右:播種後20日、定植期

資料5 12cm株間の水田での畝づくり



資料6 下葉かぎと防寒



左:10月中旬 葉かぎ作業 右:12月 防寒用不織布を日中はめくる

もいくらか必要な場合もあります。遅くまで効き過ぎると発色部に緑が出ますし、不足気味だと下葉が振る、12月末には株が弱ってしまします。

防寒

厳しい霜が降りると葉が凍害を受けます。株に密着しないように不織布を掛けるなどの防寒対策が必要です(資料6)。

害虫

アオムシ、ヨトウムシなど、チョウ目の害虫が大敵です。アディオン乳剤、フェニックス顆粒水和剤、プレオフロアブルなどで予防を心掛けましょう。ダイコンシンクイに被害されると芯が無くなりますが、タイミングがよいと脇芽がたくさんのかわいいハボタンになります。諦めないでください。

果樹

環境の変化を
軽減する工夫
をしましょう



営農部指導課
武田 祐一

今月の主な作業はブドウの袋掛け、モモの収穫、柿の最終摘果、ミカンの摘果・追肥の施用、梅への礼肥施用などがあります。梅雨が明けると夏季の高温乾燥期に入ります。急激な天候の変化で果実品質の低下が懸念されますので天気予報など気象状況に気を配り、敷きわら・敷草などマルチングの実施、また晴天日が続く場合は、灌水を行うなど環境の変化を軽減するような工夫を心がけましょう。

●ブドウの管理

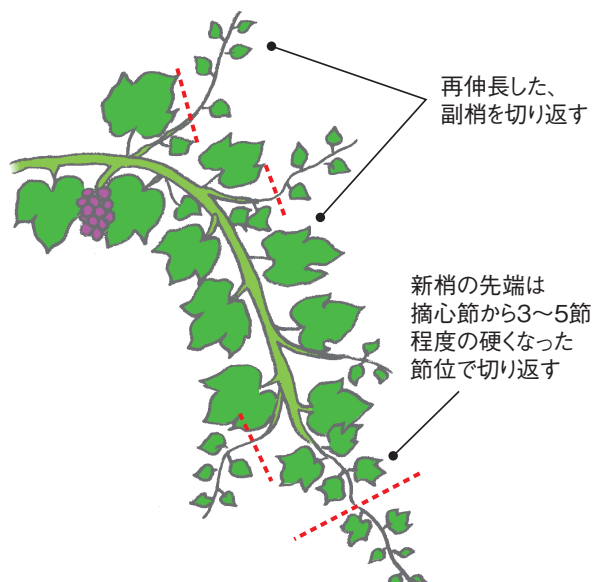
・結果量調節と枝管理について

簡易被覆栽培（トンネル栽培）のピオーネは今月中旬から果粒軟化期（果粒をつまんでみると柔らかくなる時期）を迎え、着色が始まります。この時期から果粒へ急速に糖分が蓄積されますが、枝の本数や樹勢に対して着果量が多すぎると糖度が上がらないことや着色が進まないなど悪影響が出てきます。

果粒軟化期までに5本の新梢に3房程度の着果量となるように房形の悪いものや新梢が細いものを中心に摘房を行い調整しましょう。まだ枝が伸びている場合は、副梢や新梢の先端を切除します（資料7）。袋掛けは、直前に病害虫防除の農薬を散布して、乾きだす速やかに行いましょう。農薬散布は

資料7 果粒軟化直前の枝葉管理例

新梢の先端から1本の副梢を伸ばした場合



●カンキツ類の摘果

昨年、着果過多であったところでは、今年の着果は悪いと思います。ふつつ

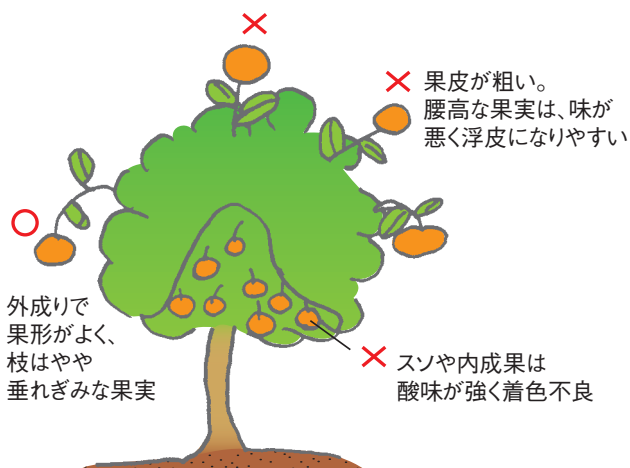
房にかけ過ぎると果粉の溶脱や果粒の汚れる原因になるので、さあーっと掛け、枝葉を中心に薬剤散布を行います。袋掛けから収穫までの間は果実の成熟が進むにつれてカラスなどによる鳥害が発生しやすくなります。実際に被害が出る前に防鳥ネットの設置やテグス糸を張るなどの対策を行いましょ。また、土壌水分が極端に変化すると裂果の原因になるので、灌水は天気をしながら、少量をこまめに行いましょう。果粒軟化後、枝の熟れ（緑色から白けだつて茶色に変色していくが着果過多で枝の充実が悪いと緑色が残る）が悪いものは着果過多となっています。

は7月上旬に生理落果が終わった後から8月上旬までに荒摘果、8月中旬から9月上旬に仕上げ摘果、9月中旬から10月上旬に樹上摘果の合わせて3回摘果作業を行います。荒摘果では、傷果や小玉果、変形果を摘果し、地際の裾成り果や樹の内側の方に着果している内成り果も糖度が上がりにくく酸が抜けないので、摘果しましょう（資料8）。病害虫防除では、ハダニ類・サビダニ類、カイガラムシ類、黒点病を予防します。果実の着色開始ごろに果皮が黒くなるのは、サビダニの被害です（爪で擦っても剥がれない）。ミカンにはハダニ類とサビダニが両方発生しますので、両方に効く農薬を使用しましょう。カイガラムシ類は果実を爪で擦ると黒色のスス剥がれます。この場合は、カイガラムシ類を防除します。

資料8 温州ミカンの荒摘果

×は摘果

果梗が太く天を向いた果実



●モモの収穫

極早生品種のはなよめは6月中旬ごろ、早生品種は7月初旬から順次収穫が始まります。モモの成熟は、日当たりの良好なところから始まるので、上の方から樹冠内部にかけて順次収穫していきます。個々の果実の収穫適期幅は1〜2日程度しかないので、毎日若しくは1日おきに収穫するのが望ましいでしょう。収穫は果実温度の低い早朝（9時ごろまでを目標）に収穫を行います。収穫は果皮色の緑色がほとんど抜けて淡黄色、淡緑色となったところで過熟軟化していない時期を狙って収穫します。市場や贈答用で収穫する場合は熟れごろより2〜3日程度早めに収穫します（アタリ果などの口ス果を減らすため）。収穫後は、持ち帰った果実を風通しのよい涼しい日陰で速やかに調整しましょう。



岡山がぎゅっと凝縮！
香ばし醤油の炊き込みにぎり

材料と分量 (1個分)

米	51.6g
水	55.2g
鶏もも肉 (皮なし)	30g
連島ごぼう	5g
蒜山大根	5.5g
にんじん	3.4g
こんにゃく	3.3g
いんげんまめ	1.3g

【調味料】

濃口醤油	6g
酒	3g
みりん	3g
顆粒和風だし	0.5g

- ① ごぼうをさがきにする。大根とにんじんは皮をむき、長さ3cmの千切りにする。こんにゃくといんげんまめは長さ3cmの細切りにする。
- ② 鶏もも肉は一口大に切る。
- ③ 炊飯器に米、水、調味料を入れて混ぜ合わせる。①②を入れて炊飯する。
- ④ 炊飯が終わったら全体を混ぜ合わせて三角型に握る。

Point!

岡山県産の食材が盛りだくさん。1つで4種類もの野菜が摂れ、醤油の香ばしさが食欲をそそります。お弁当に入れても華やかになる一品です。



点字ブロック発祥の地

今回のあぐろグラムでは岡山市中区原尾島にある点字ブロック発祥の地について紹介いたします。世界で初めて敷設された場所であることを記念し、平成22年に記念碑が建てられました。点字ブロックが発明されたのは昭和42年。碑文には盲学校の生徒が登下校の際に利用していた交差点を安全に渡れるよう、横断歩道に230枚の点字ブロックが敷設され、生徒たちが渡り初めを行ったことが刻まれています。

今では世界150カ国以上で点字ブロックが採用されているとのことです。

編集担当 久山 隆一

